

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 8 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol types and sociodemographic characteristics as risk factors for Barrett's esophagus. バレット食道の危険因子としてのアルコールの種類と社会統計学的特徴	
執筆者	
Kubo A, Levin TR, Block G, Rumore G, Quesenberry CPJ, Buffler P, Corley DA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Gastroenterology.2009;136: 806-815.	
キーワード	
GERD、バレット食道、アルコール飲料の種類、患者対照研究	
要 旨	
<p>目的： 飲酒や社会的な要因と食道腺癌の前段階であるバレット食道のリスクについてはほとんど知られていない。飲酒、アルコール飲料の種類、社会的背景、生活習慣とバレット食道のリスクについて検討を行った。</p> <p>方法： Kaiser Permanente Northern California のメンバーを対象に患者対照研究を行った。2002～2005 年の間にバレット食道と診断された 320 人の患者に、胃食道逆流症 (GERD) の 316 人、317 人の対照群を組み合わせた。既に確立された問診票を用いて、一人一人に対面式の聞き取り調査を行った。解析は多重ロジスティック回帰分析を用いた。</p> <p>結果： 1 週間あたりの飲酒量とバレット食道のリスクについては有意な関連はなかった。しかしアルコール飲料の種類で層別すると、まったく飲酒しない人に比べてワインを飲む人では飲酒量が多いほどバレット食道のリスクは低かった (まったく飲まない人に比べた時の 1 週間に 7drink 以上飲む人のリスク; 多重調整オッズ比=0.44 (95%信頼区間: 0.20-0.99))。対照群ではワインを好む人はビールや蒸留酒を好む人に比べて、大学卒業の学歴を有していることが多く、定期的にビタミン剤をのんでいることが多かった。しかし、これらの社会的要因や GERD の症状の有無で調整しても、ワインを飲む人では飲酒量が多いほどバレット食道のリスクは低いという関係は変わらなかった。また教育歴が高いほど、バレット食道のリスクは有意に低かった。</p> <p>結論： アルコール飲料の種類、社会的要因とバレット食道のリスクは関連があった。どの種類のアルコール飲料を飲むかという選択については様々な要因が関係するが、GERD を含む多重調整によってアルコールとバレット食道の関連は消失しなかった。社会的要因、GERD、バレット食道との関係についてより詳細な検討が必要である。</p>	